

平成24年度高知県PTA研究大会

今月、7月8日（日）に平成24年度の高知県PTA研究大会が、県立高知追手前高等学校の芸術ホールで開催されました。

研究主題は、『学校・家庭・地域で子どもの命を守る』とし、暑い中、多くの方の参加がありました。

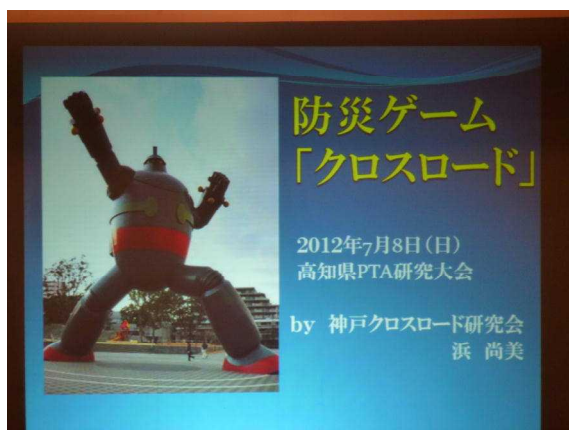


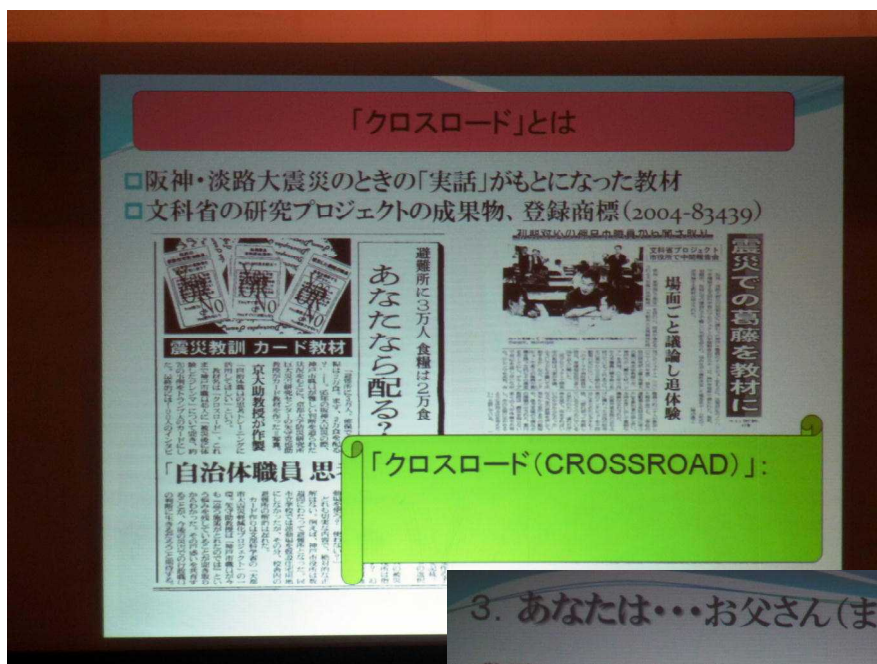
開会式では、高P連会長 生永慎一氏が、高知県保幼小中高PTA連合体連絡協議会 会長として開会の挨拶を行いました。



講演・演習では、演題「学校・地域・家庭が一緒になってできる減災害への取組～防災ゲーム『クロスロード』を体験しよう～」として 神戸クロスロード研究会代表の濱 尚美 氏の講演がありました。

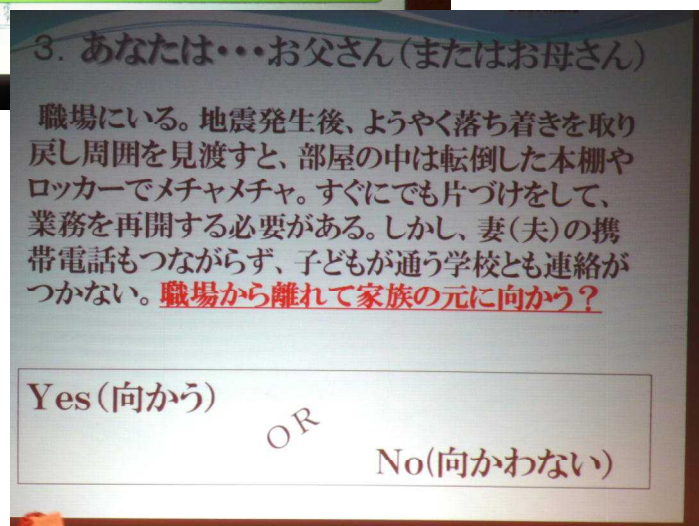
各校種別に代表2名の方が参加され演習をおこないましたが、高等学校からは、県立伊野商業高等学校PTA会長さんと県立高知西高等学校のPTA理事の方が参加されました。





クロスロードとは、防災などにおける事例を設問とし、参加者は、その事例を自らの問題として考え、YES・NOで自分の考えを示し、その背景となった経験や考え方、知恵の交換・共有を行う研修教材のことです。

☆とっさの判断をクロスロードで磨くとし、様々な設問に、自分だったらと考えYES/NOに手を挙げられていました。そして、そう考えた理由についても述べられていました。



県立西高等学校PTA理事
濱田幾久子さん

県立伊野商業高等学校 PTA会長
尾崎伸安さん

～2011年4月12日宮城県保健福祉部介護保険室長Wさん（男性）から～

3月11日の夜から、殆ど前例のないことの連続でした。

震災直後の情報がない状態から、情報が錯綜する状態になり、真偽の情報が飛び交うなかで、管理者でもある私は、日々瞬間瞬間に判断を求められました。じっくり考えている時間が全くないのです。上司に相談する時間ありません。次々と出てくる問題に、なんらかの判断をして、どちらかに行動しなければなりません。問題は待つてはくれません。ほんとうに、これは辛かった。

個々の要求や課題が次々と舞い込んできました。目の前の人、施設を救うか、公平性を守るか。

例えば、ガソリン不足は一時深刻で、私は、高齢者介護の担当なのですが、介護事業者から、ガソリン給油で困っているのを、優先給油できる証明書を発行してくれないかと訴えられたことが少なからずありました。個々に事情を伺うと切実です。当時は優先順位的にはだめだったのですが、悩んだ末に、独断でかなりの数を発行しました。感謝されましたが、役所内のルール破りです。（今では、小さな問題に見えますが、当時は、大問題でした。）

そういう時に、念頭にあったのは、クロスロードの体験です。

とにかく、何かの決断をして行動を起こさなくてはならないこと、目の前の人を救うか、公平性を考えるか、など、今、思うと、そういう局面があるのだということを体験していたことは、なんらかの心構えと割り切りの良さを私に与えてくれたような気がします。

クロスロードの内容は陳腐では、ありません。神戸の体験を伝えていこうという気持ちは、いま、よくわかります。